

科目ナンバー	POL-B-2-02		
授業コード	21050		
科目名	国際関係学		
担当者	小宮山 功一郎		
開講期	2021年度秋学期	科目区分	週間授業
履修開始年次	1年	単位数	2単位
曜日/時限	水曜4限		
授業題目	国際関係学		
授業の達成目標	世界政治は激変しつつある。複雑で混乱に満ちたこの世界をどのように考察したらよいのか、複雑な事象を分析するためのレンズである、国際政治の理論を提供することを目的とする。各理論の特徴を説明できるようにするとともに、冷戦期以降現代に至るまでの国際政治の大きな流れをつかむ。		
今年度の授業内容	激変する国際政治の背景にある理論を、なるべく時系列に沿った形で紹介していく。主に対象とするのは冷戦期以降の国際関係論の発展である。外交や安全保障分析の現場で活躍する専門家をゲストスピーカーとして招く。		
自習に関する一般的な指示事項	各回、テキストの指定する章を事前に読んでおくこと。		
授業スケジュール			
第1回	初回ガイダンス: なぜ国際関係論を学ぶのか。		
第2回	近代主権国家体系の確立: 国家とは何か。パワー(力)とは何か。		
第3回	ウィーン体制の意義: 勢力均衡とは何か。平和とは何か。		
第4回	二度の世界大戦: 国際連盟の瓦解を経て、指導者たちが国際連合に込めた期待はなにか。		
第5回	国際関係とリスク(ゲストスピーカーによる講義)。		
第6回	冷戦の起源と分断体制の形成: 米ソの冷戦はいかに世界に広がったか		
第7回	危機の時代の安全保障の理論: 核のリスクをどう低減するのか。		
第8回	朝鮮半島: 韓国と北朝鮮は東アジア地域の国際関係にいかなる影響を及ぼしたか。		
第9回	新興国の台頭: 中国とインドはいかに大国としての地位を得たか。		
第10回	EUの拡大: 国家を超える存在はなぜ受け入れられ、難局を迎えたか。		
第11回	グローバル・ガバナンス: 環境問題、難民問題など国境を超える問題にどう取り組むのか。		
第12回	日本の外交(ゲストスピーカーによる講義)。		
第13回	科学技術と国際関係: : 国は技術で興り、滅びるのか。サイバーセキュリティは国際関係をどう変えたか。		
第14回	アフタートランプ: グローバリゼーションの後退、民主主義の窮地、ツキュディデイスの罠は現実となるか。		
第15回	総括: 近未来の国際関係に予想されるシナリオは。		
授業の運営方法	テキストは毎回持参すること。テキストおよび講師が投影するスライドを使いながら講義を行う。毎回授業後に、内容に基づいた短い課題提出を求める。この課題提出をもって出席と判断する。		
成績評価の方法 ※次の評価基準・割合に基づき評価されます。			
評価の種類	割合（％）		評価方法、評価基準
定期試験	0%		実施しない。
小論文・レポート	60%		中間、期末レポートの提出。
授業参加	40%		発表、討論参加、質問、コメントなどの授業参加と毎回授業後のリアクションペーパー提出を以て判断する。
その他	0%		
テキスト	小川浩之, 板橋拓己, 青野利彦. 2018. 国際政治史 主権国家体系のあゆみ. 有斐閣ストゥディア. 有斐閣.		
参考文献	西谷真規子, 山田高敬(編著). 2021. 新時代のグローバル・ガバナンス論 ―制度・過程・行為主体―. ミネルヴァ書房. ジョセフ・S・ナイ・ジュニア, ディヴィッド・A・ウェルチ. 2017. 国際紛争－理論と歴史【原書第10版】. 有斐閣. 土山實男. 2014. 安全保障の国際政治学 - 焦りと傲り. 第二版. 有斐閣.		

関連ページ	
その他、履修生への注意事項	<ul style="list-style-type: none">・国際社会では絶対的な支配者がいない中で、各者が自らの生存と繁栄を追求している。国際関係学で学ぶ理論は、学生諸君の社会(例えばバイト先の人間関係、サークル)に応用可能なものが少なくない。気負わずに履修してほしい。・新型コロナウイルス感染症の影響で、授業運営方法を変更する可能性がある。初回の授業ガイダンスに必ず出席し、授業の達成目標と運営方法について最新情報を理解すること。・本学の対面授業実施の原則に従い、講師は毎回教室から教室内の学生とオンラインの学生に対して授業を行う。・ゲストスピーカーによる授業は、現場で働く外交官、シンクタンク職員に依頼し、実経験を中心に講演いただく。日程調整の都合で授業スケジュールを前後する可能性がある。
実務経験のある教員による授業科目（令和2年度から該当科目に記載されます）	
実務経験の概要	サイバーセキュリティ対応を行う非営利団体で15年にわたって勤務している。サイバーセキュリティ問題の解決のため、各国政府や国連、国連専門機関、地域安全保障機構などとの折衝を行ってきた経験を持つ。 また東南アジアやアフリカにおいて、技術者の能力開発支援の経験も豊富である。
実務経験と授業科目との関連性	上記の、実務経験を元に講義を行う。